OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

商工經濟研究　第十四卷　第四號（昭和十四年十月十日發行）

ソヴイエト聯邦の經濟的躍進（一）

松崎實次

一、序言
二、戰時共産主義時代
三、新經濟政策時代

一　序言

我が國とソヴイエト聯邦との關係は今や可成急迫してゐる。蔣介石政權を援助して我が國の東亞新秩序建設を防害してゐる國にイギリス、フランスの外にソヴイエト聯邦のあることは讀者諸彦の熟知せらるゝ所である。特にソ聯邦が其の優なるものであつて、飛行機、戰車、トラック、彈丸等の軍需品其他軍需工業の資材の供給を盛になすのみならず、多數の飛行將兵其他の軍人を支那に送つて第一線に立たしめ、或は支那軍の指導を行ひ、或

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

は後方攪亂に參與し、或は國民政府内部に共産黨勢力の扶植を企て、更に支那一般民衆に共産主義を宣傳普及し、抗日勢力の擴大强化を圖りつゝあることも、かくれなき事實である。蔣介石が連戰連敗を喫し支那沿岸は全く我が海軍によりて封鎖せられ、軍事的にも經濟的にも將又農工商各産業的にも最も重要なる地方を失ひ、既に南京から漢口へ、漢口から重慶へと幾度か遷都したが近頃は又々重慶が我が荒鷲の爲に度重なる猛爆を受けてゐるので住民の大部分は避難し、政府諸機關も各所に分散するの余儀なきに至り、更に奥地に逃入せんとしてゐる有樣であつて、今や蔣政權は全く地方軍閥に墮し僅かに其の命脉を保ちつゝも、尙ほ長期抗戰を豪語してゐるのは、彼が英ソの援助を頼みとしてゐるからである。然るに最近歐洲に於ては獨波が戰端を開き英佛又之に加はるに至つて、第二の世界大戰に入らんとの危機をさへ孕む狀態とつなたから、自然英佛は何を置いても自國を守る爲に歐洲を一日も早く平和回復を圖らねばならぬ事になつたから、更に積極的に蔣介石を援けることは出來ぬのは明かである。それ故に今や蔣介石は爾後ソ聯邦に對して一層援助を乞ふに違ひない。又ソ聯邦としても獨ソ不可侵條約締結に依つて、ドイツから西部方面を攻略せられる心配もなくなつたので、此の機會に援蔣政策を强化するであらう。而して直接間接に日本に對しても强氣に出て來るであらう。昭和十二年頃から北樺太石油利權に關してソ聯邦側の不當なる壓迫が强化せられて來た。又我が露領漁業權問題に對してもソ聯邦の取締方針は一九三五年頃から急變し、最近には我が方の協調的態度を無視して單に取締を嚴重にするといふよりは、寧ろ壓迫を加へるといふ階段に迄進んで來たのである。而して一九三八年には張鼓事件が突發し、我が軍の隱忍自重をなしゐ

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

たに不拘遂に兩軍の衝突を惹起した。

更に又張鼓峰事件が起つてから約一ケ年後、即ち一九三九年五月に至つて第二の張鼓峰事件とも言ふべき滿蒙國境事件、謂所ノモンハン事件が勃發し日を追ふて發展し最近では日滿軍とソ蒙軍との間に空中戰や機械化部隊戰が相當大規模に行はれ、我が彼を制壓してゐることは新聞其他に於て熟知せらるゝ所と思ふ。元來ノモンハン附近に於ける外蒙兵の越境は古くから屢々行はれてゐたのであるが、しかし其兵力は微弱であり小規模であつたから、越境の都度滿洲國々境警備隊に依つて擊退をなし、大事には至らなかつたのである。然るに昭和十四年五月十一日に至つて、從來に見られなかつた程の優勢な兵力を以てハルピン河を渡り越境し來つたので、我が方の警備軍は直に應戰間もなく之を擊退したので、一時小康を得たけれども、更に數日を經て彼は大規模に飛行機並に機械化部隊を集結して我に迫つて來た。我が方も空陸呼應協同して激戰を交へ彼を沈默せしめたのであるが、今や彼我共に同地方に相當有力部隊を多數集結對峙してゐる有樣であるから、何時大戰鬪が勃發するかも知れぬのである。而して張鼓峰事件といひ、ノモンハン事件といひ共に我が對支聖戰に對する牽制ではあるが、又同時にソ聯邦の我が國に對する挑戰であつて、將來ソ滿國境の各地に於て同樣の事件が起らぬとも限らぬ。而して遂には日ソ兩國間に一大決戰を見る時が來るであらう。ソ聯邦は古くから東方政策に力を注ぎ時期を見ては進出を試みてゐる。日露戰爭もロシアが滿支に於ける勢力を扶植し引いては日本壓迫を志したのに對し日本が彼の目的を阻止せんとした爲めに起つた戰爭である。ソ聯邦が東方に於て我が國を邪魔者とし敵視してゐる事は明白であ

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

る。既に滿洲國は日本の被護と援助とに依つて獨立國家を形成し、日に月に進展整備しつゝある。支那も將來は日本の力をかりて新政權の下に秩序ある國家が生れるに違ひない。かくして我が國の勢力も滿支に愈々擴大强化されるのであるが、之はソ聯邦の最も喜ばざる所である。然しながら我が國としてはソ聯邦初め其他の國が喜ぶと喜ばざるとを問はず、我が國自身の發展の爲めに、又滿支兩國民を救はんが爲めに、如何なる國難にぶつからうとも、よく之を克服し今回の聖戰の目的を達成しなければならぬ。日滿支共存共榮の實を結ばしめなければならぬのである。斯の如くして我が勢力が滿支に强化されるに從つてソ聯邦との關係も益々複雜化し、何時兩國の間に大衝突が起らぬとも限らぬ。否既に現に兩國の關係は刻々惡化しつゝある。それ故に吾人は此の際に於てソ聯邦をあらゆる角度から研究して我れに備へをなして置くことが必要であると確信するのである。之れ筆者が茲に筆を執つてソ聯邦に就て述べんとするに至つた所以であるが、しかし筆者は自分の學問的研究の立場上、ソ聯邦の革命以後に於ける經濟的發展の狀況を述べるに止める。

備　考　本稿を脱した後昭和十四年九月十五日、日ソ停戰協定が成立し十六日午後一時我が外務省より日ソ兩國政府共同コンミユニケ及び外務省情報部長談を左の如く發表した。

外務省情報部長談（十六日午後一時）　帝國政府は日ソ兩國間諸懸案解決のため努力中のところ、日ソ兩國政府は滿蒙國境ノモンハン方面における紛爭解決は兩國間にわだかまる不快なる空氣を除去し、國交の正常化に資するものと認め最近數回にわたり駐ソ東鄉大使とモロトフ外務人民委員と會談の結果九月十五日遂に彼我の間に停戰協定の成立を見るに至つ

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

次第である。

日ソ共同コンミュニケ

最近日本大使東郷氏、外務委員モロトフ氏間に行はれたる交渉の結果すなはち日滿側およびソ蒙側に左記合意に到達せり

一、日滿軍およびソ蒙軍は九月十六日午後二時（モスクワ時間）—日本時間午前九時—を期し一切の軍事行動を停止す

二、日滿軍およびソ蒙軍は九月十五日午後一時（モスクワ時間）—日本時間午後八時—その占め居る線に止まるものとす

三、現地における双方軍代表者は直に本合意（一）および（二）の實行に着手す

四、双方の捕虜および死體は交換せらるべく右につき現地における双方軍代表者は直に相互に協定し實行に着手す

なほ東郷氏およびモロトフ氏間交渉において最近紛爭ありたる地方の蒙古國民共和國および滿洲國國境を明確ならしむる目的をもつてソ蒙側代表者二名および日滿側代表者二名より成る委員會をなるべく速に組織せらるべしとの合意成立せり、同委員會は構成後直にその事務に着手すべし

しかし右の停戰協定成立を以て、將來に於ける日ソ兩國間の衝突が永久に除去されたなどと考へることは出來ない。國際狀勢は絶えず變化しつゝあり、ソ聯邦の態度も何時急變せぬとも限らぬ。ソ聯邦の東南方進出政策は決して放棄される筈はないのであるから、吾々としてはソ聯邦に對して平生から確固たる對策を講じて置かねばならぬと確信する。

一九一七年帝政ロシアは社會主義革命に依つて一擧に崩壞、其の姿を沒してしまつた。言ふ迄もなく此の革命に對しても、又革命政權に對しても世界各國から非常な注意が注がれたのである。同じく革命を稱せらるゝも、フランス革命とロシア革命とは其の內容に於ても過程に於ても甚だしき差異が認められる。フランスに於ては革

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

命勅發以前には貴族・僧侶・商工業に對する特殊組合・大實業家等が納稅の減免・國民よりの徵稅・事業經營等の特權を得てゐた計りでなく、之等の特權の濫用も盛になり、國民大衆の生活が甚だしく窮迫したのみならず、政治家は濫りに干涉政策を張行して民衆の自由を奮ひ弊害百出といふ有樣であつた。其外王室・貴族・僧侶等の墮落、物價騰貴に依る生活の壓迫、飢饉に依る食糧の缺乏、國庫財政の極度の疲弊等の爲めに國內が混亂狀態に陷つたが之を整調し、時局を救ふ樣な大政治家も出でなかつたので、あらゆる特權・干涉政策の排除・自由平等權の獲得を目標として暴動が起り、之が發展して革命となつたのである。だから國民大衆の不平不滿から無計畫に起つた暴動が發展して殆んど豫期せられぬ程の大革命を見るに至つたとも言ひ得るであらう。然るに後者は貴族・大地主・富豪特權階級に對する一般民衆の反感のあつたのは事實であるが、かゝる個々のことよりも寧ろ專制主義と共和主義、資本主義と共產主義、資本家階級と勞働者階級との正面衝突、軋轢鬪爭に依つて起つたと見るべきである。尤も度々起つた高度の飢饉に依る民衆の生活の困窮や歐洲大戰の影響等も革命誘導の一因であることは認めねばならぬ。而してロシアの革命はフランスの無計畫無準備の暴動進展的革命に比すれば遙かに計畫的であり、多年に亘る準備の結果である。然し筆者は茲に兩革命の原因や過程を比較研究して詳述せんとの意圖ではないから之位に止めて置くが、世界各國がロシアの革命に對して注意を深くした部面は政治的・軍事的・文化的・經學的・各部面に亘つてゐるけれども特に筆者は經濟學徒として經濟部面に就てのみ觀察すれば社會主義革命が果して成就するかどうか、又之が完成した曉に革命政府が如何なる經濟政策を樹立實行するか、又社會主義革命

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

家の思念してゐる樣な、理想的社會主義が實現し、かゝる社會が將來永遠に發展し得る否やといふ點にあると考へるのである。少くとも筆者は之等の點に大なる關心を抱き興味を持つてゐたのであるが、兎も角一應革命は完成し革命政府が樹立し年來二十有餘年を經過して今日に至つてゐる。然らば革命後のロシアの經濟組織は眞の意味に於ける社會主義經濟組織に出來上つてゐるかと言へば事實そうではない。革命直後に於ては政府は理想的社會主義經濟組織確立に邁進したけれども、產業施設や經濟組織の破壞・勞働生產性の低下・勞働者管理の不備と不馴れ、外國の干涉等の爲に農工業共に生產高の激減となり、從つて運輸機關の活動も不振に陷り、農村對都市の商品交換計畫も失敗に歸し、食糧品其他の分配制度も圓滑に進まず、各種產業は一樣に衰へてしまつたのである。レーニン Lenin も困りはてた末、新經濟政策 New Economic Policy, NEP を採用するに至つたのである。新經濟政策に就ては後に述べることゝするから茲には一言するに止めるが、此の政策の中には資本主義が多分に取入れられてゐるのであつて、此の政策を實施するに至つてロシアの經濟產業が漸次回復したのは事實である。此の事は純然たる社會主義の實現・前進が不可能であることを裏書するものである。それ故に此の事實を見て社會主義が資本主義に降伏したのであるとの批判をなす論者が出て來たのである。然しレーニン初め其の一派は純然たる社會主義を固持する以上、經濟的發展を望み得ざる事は承知してゐながらも、速に資本主義に服することは革命の責任者として、又革命政府の首腦部として其の地位を保持する上から見ても又民衆の信用を維持する上から見ても出來難い所であるから、彼等は社會主義社會建設の爲めの一過程として又一方法として此の政策を採つ

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

たのであり、此の過程に於て民衆に對して社會主義的訓練を施すのがあると抗辯してゐるのである。

そは兎も角としてソ聯邦の經濟は新經濟政策時代に入りて漸次回復し、更に計畫經濟時代即ち五ケ年計畫時代に入つてから驚くべき躍進を遂げたのであるが、しかし五ケ年畫も突如として樹立されたものではなくして、革命後十年餘りの準備時代が存することを知らねばならぬ。筆者は此の期間を戰時共産主義時代・新經濟政策時代の二つに分ちて論述し然る後計畫經濟時代に於ける經濟發展の狀況を述ぶることゝする。

二　戰時共産主義時代

革命以前に於けるロシアの主要産業は農業であつて、農民の數も多く作付面積も廣かつたので農耕技術が幼稚であり資本の欠乏が甚だしかつたにも不拘、其年生産額は四十五億留に達し之に林・漁・狩獵・牧畜諸業の生産額を加ふれば百二十八億留の巨額に達した程である。然し他方工業も特殊のものは可成發達してゐた。即ち纖維工業・冶金工業・鑛業等が之であつて、しかも之等は大規模のものが多かつた。けれども生産技術も優秀でなく、其の組織も不備であり、資金も欠乏勝で外資に依らなければならぬ有樣であつたが、それにしても工生産年額は七十億留に達してゐたのである。然るに一九一七年革命が勃發してから生産組織は全く破壞せられ、社會的不安は日一日と高まり全露に亘つて混亂狀態に陷つた。しかも革命直後に於ても依然として勞資の階級鬪爭は止まず、反革命派に對する殺戮・國外放逐・逃避等の爲に愈々國民は不安に襲はれ、政治も外交も將又經濟も全く常

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

態を逸脱し、如何に落付くかの見透しさへも出來ぬ迄に攪亂されてしまつたのである。平時の狀態に於てさへ前述した樣に技術の幼稚、組織の不備、資金の不足に困惑したのであるから、かゝる狀態となりては最早新に外資を望むことの不可能なるは勿論、曩に投ぜられてゐた外資が續々引上げらるゝ事になつた上に通商拒絶をなす國さへも相次いで生じたので、生産能率は低下し産業が衰微するに至つたのは當然と言はなければならぬ。特に革命政府は資本主義經濟組織破壞後、從來の生産設備の上に直ちに社會主義を實現せんとして、政府の權力を以て所謂戰時共産主義を無理押した强行したのであるが、之は完全に失敗に終つたのである。然らば戰時共産主義とは如何なるものか。之を約言すれば一切の私有を禁止して國有となし、私的營利行爲を禁止する。即ち土地も資本も銀行も交通機關も工業も皆國有とし外國貿易や主要商工業を國營に移さんとするのである。而して勞働者を强制徵發して生産に從事せしめ、生産物は國家の機關に依つて國民に分配せらるゝのであるから資本主義經濟に於て最も必要とする所の市場・貨幣・信用等は不要になつてしまふ譯である。斯くの如き社會に於ては個人の營利心を刺戟するものはなく個人の自由も認められない。正統學派の經濟學が敎ふる如く經濟活動の源泉が個人の營利心にあるなれば最早斯くの如き社會主義社會に於ては、權力に依つて强制するに非ざれば人々の經濟的活動は終止するに至るであらう。少くとも餘剩價値獲得の爲に働く者はなくなるであらう。若し總ての人が神佛化し全然私利など念頭に置かず、他人の爲め將又國家社會の爲に進んで身を犧牲にして活動することを欲するなれば兎も角であるが、今日かゝる神佛人を全人類のすべてに求むることは不可能である。又假令權力を以て强制的に勞働せし

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

むるとしても私利の伴はざる限り能率が上らうとは思へない。右述ぶる所の私有の禁止は一九一八年六月二十八日の一般國有令發布に依つて確定されたのであるが、しかし之は法律上一切の私有が國有に移されたといふに過ぎぬのであつて、事實は一片の國有令を以て一億數千萬の人口に、又二千萬平方粁餘の廣大なる地域に對して一擧に徹底的に國有を實現することは出來なかつたのである。特にソ聯邦の如く文化の程度低く、社會組織が不完全であり社會が混亂してゐる上に革命政府も必ずしも強力とは言へず、それ計りでなく反革命政府勢力が相當根強い國に於ては、國有の徹底的完成はそんなに容易に行はれるものでないことは見易き所である。其の一例を見るに大工場の如きも次表に示すが如く一九一九年一月には僅に八三〇丈が國有となり年を追ふて漸次其數を增してゐる有樣である。

ソ聯工場國有數

年月日	國有工場數
一九一九、一、一	八三〇
一九二〇、一、一	三、三二四
一九二一、一、一	五、八三四

工場國有の實現は政府の力に依るといふよりも寧ろ勞働者の力に依つたといふのが眞相であらう。革命直後に於ては政權が動搖してゐたから政府の力は左程强力でないのに反して、勞働者は革命には初めから贊意を表し其の團結力は堅固なものがあり、從つて勢力が强く彼等は盛に企業の國有論を强調し、其實行に向つて非常な努力を

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

なしたのである。それであるから革命直後未だ工場の國有が多く實現しなかつた時分に、既に工場勞働者代表が經營委員會を組織して資本家の經營する工場に乗込んで帳簿や通信の檢査を行つたり、經營に干渉したり、又經營の乗取策を講じたりなどしたから、資本家たる工場主との間に鬪爭が頻發したのである。しかし概して勞働者側が勝利を博した。資本家の中には工場を放棄して逃走する者もあれば、又勞働者の要求に應ぜぬといふ理由で政府が工場を沒收することも尠くなかつた。だが然し工場經營が勞働者の年に移つても彼等は工場經營に就ては智識もなく無經驗であるから所謂無計畫の經營をなすの外はないのであるから、經營の成績を擧げ得なかつたのは當然と言ふべきである。又國有に移つてからも革命による生產設備や生產組織の破壞・資本や原料・燃料等の不足、經營に無經驗なる官吏の放漫なる經營法等の爲めに生產力の低下甚だしきものがあつた。一九二〇年の如きは戰前の約二割、その翌年には約二割五分といふみじめな成績しか擧げてゐないのである。尙ほ詳細は次表を見よ。

ソ聯邦工業生產指數

年次	工業生產指數
一九一三	一〇〇・〇
一九一七	七五・七
一九一八	四三・四
一九一九	二三・一
一九二〇	二〇・四
一九二一	二四・七

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

備考　本表は小泉信三著　ソヴエート計畫經濟　一七―一八頁

原表は G. T. Grinko, The Five Year Plan of the Soviet Union, 1930. P. 34.

ポロツクが一九二〇年に於ける工業狀態を「工業の崩壞」と題して述べる所に依れば「戰時共產主義時代の末期にありては形式的には二百萬以上の勞働者を擁する三萬七千二百二十六の經營が最高國民經濟會議の下に立つに至つた。かく多數の經營も國民經濟の徹底的組織化といふ集中的管理裝置の形式に就ての一切の措置が結局不成功に終つてしまつた。……全產業に就て算定するに生產總額は一九一三年の狀態の一割八分に低下してゐる。……又纖維工業の最も重要なる部門たる木綿工業に就て言へば一九二〇年は戰前生產の辛うじて二十分の一を生產し得たに過ぎない。しかも此の僅に二十分の一を生產するが爲に要したる燃料は戰前の四分の一、勞働者は三分の一餘りを費してゐる。而して一人當りの生產力は僅に八分の一弱に低下したのである。纖維工業の他の重要部門たる羊毛工業に於ても、木綿工業程度ではない迄も、大體同樣に成績は惡化してゐる。吾々にとつて重要なことは、何故に所謂戰時共產主義政策が破局と荒廢に終つたかといふ根本の理由を明にすることである。原料や燃料の輸入の杜絕・勞働者達の生活必需品調達の爲めの日常鬪爭・無數の集會やデモンストレーションやが、一九三〇年の多くの月に於て實際の勞働日數を少くした爲である。」と述べてゐるけれども、それよりももつと根本的原因は私的營利の否定・市場の破壞による經濟計算の喪失・從つて起る生產手段及び消費財の非經濟的な分配

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

に歸すべきである。（山本勝市・國民精神文化研究第三年第三冊一〇―一一頁）土地國有に就ても「土地の私有は之を廢止す。土地の賣買貸借をなし之を抵當とし若しくは其他の方法を以て讓渡し得ず」と定められてゐるのであるから、農民は只土地の用益權だけはある譯であるが、事實は法文通りに實行されなかつた。否寧ろ王侯貴族の土地を沒收して之を農民に分與し、或は農民の私有地や彼等が略奪した土地さへも政府は默認してたのである。然らば何故政府がこんな不徹底な策を採つてゐたかと云へば、七千餘萬の人口を持つ農民の機嫌をとつて置かなければ革命政府の將來があやぶまれる。農民の協力を得ることが革命の完成や政權伸長の爲に絶對に必要であつたからである。然るに農民は土地の私有が默認されたから、其收穫物も亦全部私有に歸るものと考へてゐた所が、政府は收穫物は自家用の分量丈の私有を認め、餘剰は全部無償で政府に提供せしめる。其代りに生産用具衣類・工業品等が政府から無償で彼等に分配される旨を發表したから農民は驚いた。而して彼等の不平不滿は日と共に高まり、遂に此の制度に强力なる反對を示すに至り、農村各地で反政府的暴動を起すに至つたのである。之は政府にとつて一大打擊であつたに相違ないけれども、さればとて農民の希望を容れてゐては都市の住民や赤軍や官吏に對して食糧の供給が不可能になるから、政府は强い決心の許に農民の反對を斥けて餘剰農産物の强制徵發制度を實行したのである。農民も政府の强力なる權力に壓せられ表面上之に服したかの如くであつたけれどもそれ以來農民は色々の口實を設けて播種面積を減じ、耕作に努力を缺き、自家用に足る程度にして働かぬ樣になつてしまつた。政府は之を憂ひ何とかして農産物の增收を圖らんとして考慮の結果、强制播種制度を採用實施

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

するに至つたがそれにも不拘、農民をして之を徹底せしめることが出來ず好成績を收めることは出來なかつた。左表は革命以後如何に農業が衰へたかを知るに足ると思ふから掲げて參考に資する。

ソ聯邦農業生産指數

年次	農業生産指數
一九一三	一〇〇・〇
一九一七	九二・三
一九一八	九一・五
一九一九	七六・三
一九二〇	六八・九
一九二一	六三・九

備考　本表は同上書同頁

右に依つて見れば農業生産物は工業生産物の如き激減はなかつたにしても、一九二〇年以後は戰前の六割臺に落ちてしまつたのである。その爲に農産物も工業製品も甚しき缺乏を來し可成深刻なるものがあつた。かゝる結果を見るに至つたのは打ち續く內亂や社會不安や天候不順等も原因してゐることは認めなければならぬけれども、之等よりも增して重要なる原因をなすものは前述するが如き農産物の强制徵發制度にある。

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

以上戰時共產主義に就て大要說明したのであるが、要するに社會主義の實現は全く失敗に終つたのであつて、之はレーニン自身も認めてゐることは一九二一年の秋彼が次の如く述べてゐる所に依つて知られるのである。即ち「吾人は共產主義的生產並に分配を實施したが之は誤りであつた。農村に於ける農產物の徵發・都市を建設せんが爲に直接なる社會主義政策の遂行は生產力の伸展に妨害となり、之が爲に一九二一年には政治的經濟的危機に頻した。此の結果を見るに至つたのは、吾々が直接急速に社會主義を實現せんとした政策を採つたからである」と。そこで彼は時局を救ひ經濟の回復を圖ることが急務であることを悟り、その爲には從來の主張を捨てると共に其の政策を放棄し、新しい立場に於て新しい政策を採るより外に道なきを知り、遂に次に述ぶるが如き新經濟政策 No vaja Economiceskay Polika New Economic Policy, NEP. を採るに至つたのであつて之は正に、政策劃の期的一大轉換である。學者は革命直後から新經濟政策を採用する迄即ち一九一七年から一九二一年春迄を戰時共產主義時代と呼んでゐる。

三　新經濟政策時代

資本主義經濟組織を破壞して其の跡に直ちに社會主義經濟を實現せんが爲に戰時共產主義政策を强行したるも遂に失敗に終つたことは前述した所である。そこでレーニンも政策轉換の必要を認め再び資本主義を取入れ所謂新經濟政策を採用實施したのであつて、此の時代を新經濟政策時代と名付ける。凡そ一九二一年から一九二八年

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

秋頃迄を言ふのである。レーニンは此時代に入りて從來の私人の營利活動の禁止を解き、市場を復活し、賣買を許すことにしたのであつて、之が新經濟政策の本質である。然し私的營利活動を認めたとは言へ革命前に於けるが如き無統制なる自由主義的資本主義制度に歸つた譯ではなく、可成多面に亘つて國有・國營なるものがあり、又相當强力なる統制の下に私的營利活動を認めたに過ぎない。けれども之に依つて社會主義政策の本質を失つたことは明白である。論者は之を以て社會主義が資本主義に降服したのであり、資本主義下に於ける勞働生產性が社會主義下に於けるそれよりも優位にあることを證するものであるとの批判を下してゐるのである。然し社會主義者は決して此の批判に服しはしない。ブハーリンは「ソヴイエト・ロシアにはプロレタリ政府の手で經濟的に今直ぐ支配し得る部分と、直ちには支配し得ない部分とがある。例へば小中工業、商業等は即ちそれで今直ちに支配し得ない部分を政府は個人に貸與して、漸進的に之をプロレタリア政權の直接經營に轉化せしめんとするものである。之が即ち新經濟政策である」と言ひ、又レーニンは「吾々がより急速に漸進せんが爲の一時的退却である」と新經濟政策の特質を述べた。更にモスクワで客死した故片山潛は「吾々はプロレタリア獨裁といふ鐵の柵を持つてゐる。ネツプは此の柵の中でブルジョアジーといふ鷄に金の卵を生ましめて、それを吾々の所得に移す爲の政策である」と說いてゐる。（蘇聯邦年鑑一九三九年版三一頁）即ち彼等は新經濟政策を採るに至つたのは決して資本主義への降服ではない。彼等の理想とする社會主義社會を實現せんが爲の一時的後退であり、暫定的迂廻的一過程に過ぎない。此の過程を通じて民衆に對して社會主義的訓練を施すのであると抗辯してゐることは前に

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

述べた通りである。彼等は革命誘發の指導者として、又其の後の責任者として、將又社會主義信奉者として今速に社會主義は全然誤謬であつた、資本主義に降參したとは言ひ難いであらう。けれども理論的に見ても社會主義に誤りがあり、又實證的に見ても其の政策實施の結果が不成績であつたのであるから、彼等が如何に强辯しやうとも、最早彼等の言に眞を置く譯にはゆかないのである。

兎も角彼等が新經濟政策を採用して先づ着手したのは、農産物の强制徵發制度を廢して現物稅を課することにしたことである。即ち曩に實施した所の强制徵發制度は農民の自家用の分量を控除した餘剩は全部國家に沒收せられてしまつたのが、今や農民は農産物の一定部分を現物稅として納付すればよい事になつたのであるから、稅以外の部分は悉く農民の所有に歸するに至つたのである。かくなれば農民はその努力に依りて收穫を增加すれば所得も亦自ら增加する結果となるのであるから、彼等の營利慾は大いに刺戟せられ、滿足せられることになる。しかし此の餘剩物が私有となつても之を賣買することが出來なければ仕方がない。それ故に政府は賣買機關としての市場を認めると共に貨幣の使用をも許すことにしたのである。即ち市場に於ける貨幣に依る自由賣買を認めることにしたのであつて、此の點に就ては資本主義下に於ける市場と何等異る所がなくなつた譯である。かく貨幣經濟が復活すれば物給賃銀制度も亦不便であるから、之も廢止して金給賃銀制度に復歸すると共に、現物稅も金納稅に改めてしまつた。此の政策轉換は農民に或る程度の滿足を與へたことは言ふ迄もない。之に依つて從來沈滯してゐた農業も年と共に活氣を呈し農産物收穫高も漸次增加の傾向を現はすに至つた。即ち次表を見よ。

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

ソ聯邦新經濟政策時の農產物收穫高指數

年次	農產物收穫高指數
一九一三	一〇〇・〇　註
一九二〇—二一	六三・九
一九二一—二二	五四・四
一九二二—二三	七三・六
一九二三—二四	七九・九
一九二四—二五	八四・〇
一九二五—二六	一〇一・三
一九二六—二七	一〇六・五

註　指數一〇〇の實數は百十六億一千萬留

本表は小泉信三　同上書一八頁

原表は　G. T. Grinko, The Five Year Plan of the Soviet Union, 1930. P. 34.

右の如く農業に就て見れば新經濟政策の効果は良好であつて、一九二五—二六には早くも戰前狀態に迄復歸するを得、爾來更に躍進の道を辿りつゝあるのである。之は主として私的營利活動が認められた爲めに農民の營利的の刺戟、從つて生ずる努力の結果に依るものであることは勿論である。而して政府が資本主義的政策を取入れたために、農民の間に貧富の差を生ずることは、資本主義社會に於けると同樣である。資本も少なく又農具も家畜さへも有せざる貧農は自己の土地をも充分に耕作が出來ない始末であるから益々貧しくなる。之に反して資本の

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

豊な農民は貧農から土地を借入れて耕作する計りでなく、よい農具を使ふことも出來るし、肥料も好いものを多く使用し得るから收穫高も増すこととなるを以て益々富む。かくして貧富の差は愈々甚しくなつてくる。而して遂には貧農は富農の勞働者になり下つてしまふのである。此の點は歐洲の中世紀末葉から近代にかけて大工業の發達と共に從來の手工業者や家内工業者が大工業に壓倒せられ、遂には資本家の下に集つて勞働者となる者の多かつたのと其の軌を一にする。勿論人數から言へば富農は少數であるけれども社會的地位から見ても、又都市住民や赤軍に食糧を供給する點から見ても彼等は重要性を持して居り勢力も強いのである。次にソ聯の農村人口の階級別概數を示さん。

ソ聯邦農村階級別人口　（單位百萬人）

農業プロレタリヤ	三・四
小　農	三四・〇
中　農	五二・〇
裕　富　農	一一・〇
富　農	五・〇
農業に從事せざる者	一四・〇

備　考　本表は小泉信三　同上書一四頁

原表は Jugow : Die Volkswirtschaft der Sowjetunion und ihre Probleme, S, 150—151.

農業プロレタリヤは主として賃銀勞働者、小農は二デシヤチン（一デシヤチンは約一町一反五歩）以下

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

の土地所有者にして馬、農具等殆んど有せず。中農は自家の勞働によりて耕作しうる程度の土地を有し多少の利益を收むるもの。裕富農は六―一〇デシヤチンの土地所有者、富農は一〇デシヤチヤン以上の土地所有者をいふ。

社會主義者にとつては貧富の差が生じ、而も日に增し其の懸隔が甚だしくなり、富農の勢力が伸長して來るといふことは憂ふべきことである。なるべく平等にし貧富の差を少くし富農の勢力を衰へしむることは彼等の理想であり念願である。然るに新經濟政策採用以來社會はこの理想と反對の方面に進みつゝあるのであるから彼等にとつて心懸りであり心配であつたに違ひない。何となれば富農や商工業の金持階級はプロレタリア政權の異分子であり、所謂プロレタリアの搾取階級であるから、之等が裕福になり勢力を得ることは敵の力を强め、ソ聯邦政權の壓力となるからである。レーニンの死後スターリンが其の地位に就いたが、矢張同じ政策を襲踏せねばならなかつたのである。それは新經濟政策を捨つれば再び產業が衰頽し社會不安を來たし、彼等の考ふるが如き社會主義社會を建設することが出來ないと考へたからである。言はば彼も亦社會主義社會建設の迂廻的過程として止むなく同じ政策を持續したものと思はれる。然しながら彼は右反對勢力を壓迫することを忘れなかつた。即ち彼等に對して選擧權の剝奪、高度の財產課稅等の方法を以て彼等の成長と勢力の增大に制限を加ふると共に、經濟的にも貧農の生產力の發展に力を注ぎ、それに依つて資本主義的勢力に對抗せしめんとしたのである。

次に新經濟政策實施以來商工業方面は如何に變つたか。此の方面も農業方面と同樣に一大發展を遂げたと言ふことが出來る。尤も商工業が總べて私有化したのではなく、重工業・交通業・銀行業・外國貿易等の重要產業は

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

國有國營であつた。一九二三年末に於て卸賣商業の二割五分と小賣商業の殆んどすべてが私有私營となつてゐる。何れにしても商工業の私有私營への復活は企業者の營利心を刺戟して彼等を勤勉ならしめたことは事實である。從つて其の成果見るべきものがあつた。今工業生産の發展趨勢を知らんが爲に一九一三年の生産指數を一〇〇として後年のそれを示さん。

ソ聯邦工業生産指數

年次	工業生産指數
一九一三	一〇〇・〇
一九二〇—二一	二四・七
一九二一—二二	三〇・一
一九二二—二三	三九・五
一九二三—二四	四八・〇
一九二四—二五	六七・〇
一九二五—二六	八九・九
一九二六—二七	一〇三・九

註　指數一〇〇の實數は八十四億三十萬留

備考　本表は上掲書一八頁
原表は G. T. Grinko, P. 34.

更に新經濟政策採用の年を基本として一〇〇となして工業生産額指數を示せば增加趨勢を一層明確に知ること

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

が出來る。

一九二一年度を基本とするソ聯邦工業生産指數

年次	工業生産指數
一九二一—二二	一〇〇・〇
一九二二—二三	一四五・八
一九二三—二四	一九〇・七
一九二四—二五	三一〇・九
一九二五—二六	四四三・八
一九二六—二七	五二〇・一
一九二七—二八	六三七・一
一九二八—二九	七八八・一

備考　本表は上掲書　一八頁

原表は W. H. Chamberlin, The Soviet Planned Economic Order, 1931, PP. 9—10.

本表に依つて見れば新經濟政策實施以來工業生産額は著しく增加し一九二六—二七年度には戰前狀態に迄回復してゐることがわかるのであつて、特に一九二四—二五年度以來の發展は注目すべきものがある。

尙ほ工業に於ける各部門が如何に發展の著しかつたかを示す爲めに小島精一氏の用ふる一表を左に揭げて參考に供しやう。

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

ソ聯邦に於ける工業各部門別工業生産躍進の趨勢

種類	單位	總計 一九一三年	總計 一九二七—一九二八	一九二七—二八年の一九一三年に對する百分率
1 電力生産	一〇〇萬キロワット時	一、九四五	五、〇五〇	二五九・六
中央發電所	一〇〇萬キロワット時	六九〇	一、八七〇	二七一・〇
2 燃料				
石炭	一〇〇萬瓲	二八・九	三五・四	一二二・五
石油	〃	九・三	一一・六	一二四・七
泥炭	〃	一・六	六・九	四三一・三
3 機械製作				
内燃機關	一、〇〇〇馬力	二六・五	一〇六・九	四〇三・四
農業機械	一〇〇萬ルーブル	六七・〇	一二五・〇	一八六・六
4 冶金				
鐵鑛	一〇〇萬瓲	九・二	五・七	六二・〇
銑鐵	〃	四・二	三・三	七八・六
5 化學工業				
ソーダ	一、〇〇〇瓲	一五四・〇	二〇五・〇	一三三・一

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

過燐酸鹽	〃	〃	五五・〇	一五〇・〇	二七二・〇
6一般消費財					
綿布	一〇〇萬メートル	二、二五〇・〇	二、七四二・〇	一二一・九
毛織物	〃	〃	九五・〇	九七・〇	一〇二・一
砂糖	一、〇〇〇瓲	一、二九〇・〇	一、三四〇・〇	一〇三・九

備考　本表は小島精一著　ソヴイエイトの重工業一〇頁

之に依りて見れば、冶金業だけは一九二七―二八年に於ても戰前の標準に達してゐないが、他は何れも戰前の狀態よりもよくなつて居り、就中泥炭・內燃機關二業の如きは四倍以上の躍進を遂げてゐるのである。概して言へば重工業部門は甚だしく進んで來たが、消費部門の各工業は戰前狀態に漸く達したといふ程度である。此の點から見ても次の時代に於ける五ケ年計畫にありては冶金工業並に一般消費財工業の發展に大いに努力せねばならぬことが了解せらるゝであらう。

以上を要するにソ聯邦は革命に依つて一應帝政資本主義國家を打倒することに成功したけれども、政府が革命後直ちに社會主義社會を建設せんとして戰時共產主義政策を强行したが、之は見事に失敗してしまつたので、遂に過去を顧みて反省をなし、從來の誤れる政策の再檢討を行ひ、資本主義を多分に盛つて新經濟政策を樹立した。而して之に依つて相當程度の私有私營を認めて、國民大衆の營利心を刺戟して漸く經濟の回復を圖ることが出來、

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

一九二六―二七年度に至つて産業を戰前の狀態に迄引戻すことを得たのである。しかし資本主義政策を採れば産業が發達するといふことは社會主義者は充分に知つてゐながらも、之を無限に押進めることは彼等の立場上出來難い所であるから、それは出來ない相談である。それかと言ふて彼等が初めに考へてゐた樣に、純然たる社會主義を遵奉する限り、生産力は衰へる一方であるといふことも過去の經驗に依つて知り得た所であるから、其の愚を繰り返す譯にも行かぬ。そこで彼等は面目を破ることなく、しかも經濟的發展を圖らねばならぬといふ難局にぶつかるのである。此所に於て彼等は新經濟政策に於て回復した經濟産業を基礎として、如何にして更に躍進せんかとの問題の研究に沒頭し、而して此の問題の解決に彼等は腦汁を搾つたのである。（未完）